



「KOMABA DAY」は月に一度実施している日で、世界で起こっている様々な問題に子どもたちが触れる機会を作っています。また、同日は募金箱も設置します。集まった募金は災害などの緊急支援や KOMABA の開校以来、その活動を応援し続けているトータルペインター・ミヤザキ ケンスケさんのプロジェクト OVER THE WALL に役立てられます。なお楽しみながらの活動を目指しているため、「KOMABA DAY」では講師は私服で授業をし、生徒は授業中の飲食を可としています。

## チキンライスが食べられなくなる？

マレーシアが鶏肉輸出停止  
【2022年6月1日】

マレーシアが1日から鶏肉輸出を全面的に停止するのを受け、同国に輸入の多くを頼るシンガポールでは国民的料理「チキンライス」に打撃が及びそうだ。

飲食店は鶏肉の価格上昇に直面し、供給不足で閉鎖に追い込まれる可能性もある。マレーシアでは世界的な飼料不足で鶏肉生産に混乱が生じており、生産状況やコストが安定するまで輸出を停止する方針を決めた。

ロシアのウクライナ侵攻や異常気象、新型コロナウイルス感染拡大による供給網混乱などの影響を受ける国々が供給確保や価格上昇の抑制に奔走する中、マレーシアの輸出停止は世界的な食料不足拡大を改めて浮き彫りにしている。

シンガポールは食料やエネルギーなどの大部分を輸入に頼り、鶏肉はほぼ全てを輸入。政府機関によると、マレーシアからの輸入が34%、ブラジルが49%、米国が12%を占める。

鶏の飼料は穀物や大豆で、マレーシアはこれらを輸入しているが、世界的な飼料不足を受けて政府は代替案の模索を強いられている。

ある養鶏業者は、飼料の質が下がれば鶏の発育が通常より遅くなり、供給網全体に遅れが生じると話した。

ライター通信より



6月1日、マレーシアが1日から鶏肉輸出を全面的に停止するのを受け、同国に輸入の多くを頼るシンガポールでは国民的料理「チキンライス」に打撃が及びそうだ。



庶民の味を楽しめるホーカーセンターから高級レストランまで、シンガポールのあらゆるダイニングスポットで味わうことができるチキンライス。

長く続いたコロナ規制が世界的に緩和されていくなか、その間に受けた「ひずみ」が様々なところで顕著になってきています。私たちの生活は複雑なグローバル経済の枠組みに無自覚なままかすっぽりと収まってしまっていて、もはやそこから逃れるすべはなく「生きている」のではなく、養鶏所の鶏さんのように「生かされている」のでは？と思わず感じてしまいます。

今回のマレーシアの鶏肉輸出の全面停止は、シンガポールの私たちの生活に直撃する大きなニュースです。ここ最近のインフレーションが止まらない状況にさらに拍車をかけることは必至で、いろいろなところからため息が聞こえてきそうです。ただ、子どもたちには結果を嘆くだけではなく「どうしてそのような状況になったのか」を考えるための知恵を身に付けてほしいです。ウクライナで起こっていることも然り。予測不可能な未来、を日々味わっている国民食から考えさせられています。(石川)